

# 令和元年度かながわ学びづくり推進地域研究委託事業報告書

(藤沢市立大清水中学校・藤沢市立大清水小学校)

## 研究テーマ 「学び」と「育ち」を9年間の枠でとらえた小中連携のあり方

大清水小学校、大清水中学校のある学区には、県立藤沢清流高等学校が隣接し、日頃から「三校交流」と呼ばれる活動を行っている。本研究では、これまでの交流活動を生かしながら、9年間で子どもたちを育てるという意識をもち、教育課程の「特別の教科 道徳」や「外国語活動・外国語」を中心に教育研究を行った。

### ■今年度の実践

#### 1. 小中教員、保護者、地域の方と「特別の教科 道徳」体験授業

今年度より実施している「特別の教科 道徳」について、保護者や地域の方々への理解と周知を深め、学校・保護者・地域が一つとなり子どもを育てることを目指して実施した。終了後、「学習したことを早速家庭でも話題にしてみます。」という保護者の声が多く聞かれた。



#### 2. 「外国語活動・外国語」における、小中教員合同研修

小学校の外国語と中学校英語のスムーズな連携を目的とし、中学校の英語科教員が小学校の外国語の授業を参観したり、アドバイスや研修の一部を担ったりして、小中合同で研修を行った。

また、小学校における外国語の授業づくりの際には、中学校英語科教員が指導案検討から参加し、研究授業や研究協議を行った。

#### 3. 職場体験発表会

代表の中学生が小学校を訪問し、中学校で行った職場体験報告会の経験を踏まえて「仕事の大切さ」や「発表の工夫の仕方」について、6年生へ向けて発表した。4事業所の発表それぞれに対して、小学生もたくさん質問や感想を伝え、交流が盛り上がった。また、発表の仕方やプレゼンテーションの内容、職場体験そのものについてなど、対話の着眼点も様々であり、互いに高め合うことができる「学び」の場となった。



#### 4. 「三校交流」の取組

- ◇ひまわりの苗植え…5月、小学校が育てたひまわりの苗を、中学生・高校生と一緒に川沿いに植えた。
- ◇あいさつ運動…9月、1月に、3校が合同で登校時にあいさつ運動を行った。
- ◇読み聞かせ…12月に、高校生が小学生に対して、絵本の読み聞かせを行った。
- ◇書き初め…1月初旬に、高校生が書き初めの講師になって、小学6年生の指導を行った。
- ◇ふれあい交流…1月下旬に、ふれあい交流として、3校が小・中・高の3会場に分かれて、かるたとり、ドッジボール、しっぽとりなどの交流活動を行った。

### ■成果と課題

これまでの「三校交流」を土台に、「特別の教科 道徳」や「外国語・外国語活動」を中心に、教育課程における小中連携を考え、研究を進めることで、9年間の子どもの発達段階を踏まえたつながりのある教育活動が必要であることを、教職員全体で共通理解することができた。また、連携することでそれぞれの児童観や生徒観の違いが大きいことや、交流する時間を生み出すことの難しさも感じられた。

今後も、小学校教員、中学校教員双方にメリットを感じられるような取組や小中連携の交流を継続し、目指す子ども像や目標を具体的に共有しながら9年間を見通した教育実践を行っていきたい。